

事例5

テーマ：介護助手導入

概要：介護助手を導入し、介護職員が入所者様との直接業務時間を増やし、また外国人介護スタッフとのコミュニケーションの時間をつくる。

事業所概要

- ・事業所名：特別養護老人ホーム あんず苑
- ・サービス種別：介護老人福祉施設（定員：80人）
- ・職員数 85人
- ・プロジェクトメンバーの構成リーダー1名（事務長）、メンバー3名（介護主任1名、ユニット長1名、看護師1名）

事業所が抱えていた課題（取組に至った背景）

課題：介護職員が清掃やシーツ交換といった非介護業務に多くの時間を割かれており、介護の質の低下リスクと直接業務時間が不足していた。また 外国人介護スタッフとの言語や文化の違いから、情報伝達に課題が生じており外国人介護スタッフとのコミュニケーションがなかなか取れなかった。

課題解決のプロセス

- Step1 介護助手業務棚卸・業務分担表作成
- Step2 介護助手の募集・採用
- Step3 介護助手の業務開始
- Step4 介護助手の業務分担見直し・評価
- Step5 介護助手による業務改善の効果を評価
- Step6 介護助手の研修効果を測定、必要な追加研修を実施

取組時のポイント・工夫

- **介護助手採用時のポイント**
勤務時間・業務内容についての面談時にきちんと説明を行い、本人の希望に合わせて勤務時間・業務内容を決定した。

質的な成果

- ✓ 介護職員の負担軽減と働きやすさの向上の実現
- ✓ 職員の満足度向上と職場内のコミュニケーションの改善

量的な成果

- ✓ 介護助手2名採用
介護助手A 1日3時間 週4日（50代男性）
介護助手B 1日6時間 週5日（40代女性）

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- 1.現場の声を反映する**：介護助手を導入する際には、現場の職員からの意見やニーズを十分に聞くことが重要。職員が実際に直面している課題を理解し、それに対応するための解決策を見つけることが、成功の鍵となる。
- 2.段階的な導入**：介護助手の役割や担当業務を明確にし、段階的に導入。まずは一部の業務から始め、徐々に他の業務にも広げていくことで、スムーズな運用が可能となる。
- 3.研修とサポート**：介護助手が安心して業務に取り組めるよう、導入前後の研修を充実させ、特に清掃や入浴サポートといった具体的な業務内容についての指導を徹底。さらに、継続的なサポート体制を整え、問題が発生した場合にはすぐに対応できるようにする。
- 4.外国人スタッフの支援**：外国人スタッフが職場にスムーズに適応できるように、日本語教育や文化理解を促進する教育プログラムを導入。また、介護助手と外国人スタッフが協力しやすい環境を整えることが重要。
- 5.継続的な評価と改善**：導入後も定期的に評価を行い、どの程度の成果が出ているかを確認することが重要。